

Geospatial.jp G空間情報センター

ニュースレター 第48号 2025年3月発行

【目次】

- [1. アーバンデータチャレンジ 2024 開催報告](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2025.1.1-2.28\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. 位置情報データを活用したソリューションの事例をご紹介します！ / KDDI 株式会社](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)

1. アーバンデータチャレンジ 2024 開催報告



合同会社 Georepublic Japan
植田 粹美

(アーバンデータチャレンジ 2024 実行委員会)

アーバンチャレンジとは？

アーバンデータチャレンジ（以下、UDC）は、地方自治体を中心に公共データを活用し、地域課題の解決を目指す一般参加型コンテストです。年間を通じて開催されるイベントを含み、全国各地でのコミュニティ活動（アイデアソンやハッカソンなど）と、公募型の作品コンテストという二つのパートで構成されています。

今年度の1年間の活動を締めくくる公開最終審査会が、2025年3月8日（土）に開催されました。昨年同様、対面（東大駒場リサーチキャンパス）とオンラインのハイブリッド開催で実施し、対面・オンライン参加合わせて250人を超える参加者にご参加いただきました。

全国から応募された 162 作品から一次審査を通過した [ファイナリスト 22 作品](#)（一般部門：17、ビジネス・プロフェッショナル部門：5）の作成者によるプレゼンテーションが実施され、イベントへの事前参加申込みを行った参加者によるオーディエンス投票を経て、各賞の受賞作品が決定されました。

全体の最優秀作品となる金賞には「ヒヤリハットから作成するバリアフリーマップ」（チーム名：新しい学校の LiDAR ズ）が選ばれました。これは、日本大学経済学部 田中ゼミの皆さんが大学のキャンパス内でヒヤリハット（日常的に危険だと思うところや不自由だと思うところ）を把握し、iPhone LiDAR・摩擦計を用いてバリア箇所を定量化した後、潜在的な危険を可視化したバリアフリーマップを作成したものです。アプリケーションの構築だけではなくデータに基づく分析も含め、大学内だけでなく公共施設にも展開できるソリューションであり、地域課題解決において実用性が高いことが評価されました。

ビジネス・プロフェッショナル部門の最優秀賞には「SAGA スマート街なかプロジェクトの議論支援システム群」（チーム名：ソシアノッター+白松研）が選ばれました。これは、IT を使って佐賀を発展させようということテーマに、議論練習用の議論シミュレータ・対面議論の構造化システム・意見収集用インタビューbot の 3 つの柱で構成された議論を支援するシステムです。この議論支援システムを社会に実装し、誰もがまちづくりに参加できる社会の実現を目指すプロダクトであったことが高く評価されました。

最後に、UDC の各地域拠点に贈られる地域拠点賞については、活動で最も優れた地域拠点に送られる「ベスト地域拠点賞」を「埼玉ブロック」が受賞されました。これに伴い、次年度の UDC 中間シンポジウムは 2025 年秋頃に埼玉県で開催されることとなります。

今年度の最終審査会の様子を収録したアーカイブ動画は、[YouTube](#) にて公開しております。受賞作品のプレゼンテーションや受賞の瞬間の喜びが伝わる映像をぜひともご覧ください。

UDC は来年度も開催を予定しています。地域課題の解決に取り組む学校が増えていること、また、今年度の応募 162 作品のうち 110 作品が学生によるものであったことを踏まえ、「**学校連携事業**」を開始します。今後、シビックテックに関連する授業の実施や UDC に向けた開発実習の実施を検討し、学生が体系的に学べる機会の設計を共に進めていきたいと考えています。ご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

※全体イベントの情報は [Peatix](#) にてご案内しています。新着情報がお手元に届くよう、ぜひフォローください。

※全国各地のイベント情報は [公式 HP](#) にて随時ご案内しています。



図1：最終審査会の様子

■アーバンデータチャレンジに関する情報

・公式 HP：<https://urbandata-challenge.jp/>

・公式 Facebook ページ：<https://www.facebook.com/urbandatachallenge/>

■お問い合わせ

アーバンデータチャレンジ 事務局

udc-office(at) aigid.jp ※ (at) は @ に置き換えて下さい。

最終審査会の様子を現在 YouTube で視聴可能です。4時間近くの長編ですが、社会課題解決やご自身のビジネスのヒントになる点もあるかと思えます。お時間ある際ぜひご視聴ください☆

[アーバンデータチャレンジ 2024 ファイナルシンポジウム\(YouTube\)](#)

2.上位アクセス状況(集計期間：2025.1.1-2.28)

登録ユーザー数	104,813 名
期間アクセス数	682,950
登録組織数	703 件
データセット数	14,388 件
ファイル数	88,755 件

人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	東京都デジタルツイン実現プロジェクト 区部点群データ
4	長野県_CS 立体図
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 (2023 年度)
6	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
7	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山および静岡東部 点群データ
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2022 年度)
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 新宿区 (2023 年度)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京 23 区 (2022 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

[内閣衛生情報センターによる岩手県大船渡市の山林火災に関する画像公開](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. 位置情報データを活用したソリューションの事例をご紹介します！ / KDDI 株式会社

KDDI 株式会社より、位置情報データを活用したソリューション「KDDI Retail Data Consulting」(以下、KRDC)と「KDDI Location Analyzer」(以下、KLA)の活用事例をそれぞれご紹介いたします。データ分析や施策立案などのヒントにぜひお役立てください！

【KDDI Retail Data Consulting】

再開発で活況を呈する大阪・梅田地区での商業施設開発に向け、同エリアを利用する人たちの「興味関心」の分析に活用

JR 西日本エリアの駅・沿線の街でショッピングセンターの開発・運営を行う、JR 西日本 SC 開発株式会社様。今回、大阪駅周辺のマーケット調査に際し、駅ご利用者の人流分析および興味関心について分析・調査するべく KRDC をご活用いただきました。

■課題となっていたこと

- ・これまで実施してきた独自のマーケット調査は、広域商圈を対象とした大規模開発での活用が多く、特定地点がターゲットとなる小規模開発には向いていなかった
- ・従来のマーケット調査は、アンケート実施後にインタビューを行うものであり、時間がかかってしまうことがある

■成果

どのような対策をしてどんな成果が得られたのか、くわしくは[こちら](#)をご覧ください！

【KDDI Location Analyzer】

スマートシティ構想をはじめとする さいたま市の街づくり計画の施策に人流データを活用

さいたま市の将来に向けた街づくり計画のプランニングから事業の実施を担う都市局都市計画部。スマートシティの実現に向け、データの利活用や ICT 技術を活用したさまざまな取り組みを行っています。多彩な施策の計画立案に必要な人流のデータ分析に、KLA を活用。導入に至った経緯や活用方法、効果検証等についてお話を伺いました。

■課題となっていたこと

- ・人流や交通量の調査などは外部の機関に委託していたため、費用面の負担があった
- ・大規模な交通量調査は隔年で実施されるため、直近のデータが不明だった

■成果

どのような対策をしてどんな成果が得られたのか、くわしくは[こちら](#)をご覧ください！

The banner features a dark blue background with a pattern of small white dots. At the top, an orange banner contains the text "GPS位置情報データを搭載した人流データ分析ツール". Below this, the product name "KDDI Location Analyzer" is written in large, bold white letters. Underneath the name, the text "業種を問わず、様々なシーンで活用いただいています!" is displayed. The central focus is a laptop displaying a software interface with a map and a bar chart. To the right of the laptop, a blue circular badge contains the text "無料トライアル受付中".

G 空間情報センターに掲載の KDDI ページは[こちら](#)

■お問い合わせ先

KDDI 株式会社 経営戦略本部 データマネジメント部

データソリューション G <https://k-locationanalyzer.com/contact>

5. 注目のコンテンツ紹介

全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市区町村単位発地別)



前号に引き続き、2020年1月から5月の1kmメッシュの滞在人口を Cesium で可視化しました。可視化結果の動画とデータを公開しています。データは GoogleEarth にドラッグドロップすれば見るすることができます。

QGIS で各 1km メッシュの滞在人口を高さにすると 3D 表示が可能です。月別に可視化した画面キャプチャをつなぎ時系列変化の動画を作成することもできます。

*描画イメージは一例です。

対象データセットはこちら

■G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆[G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#)をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの[お問い合わせ](#)は、該当の[データセット名](#)と [URL](#) を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : info@geospatial.jp

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。